和教時報

2021年９月15日（水）発行　第1977号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

願い　悩み　不満　など　本音で語り合い、仲間を増やそう！

和教組　執行委員長　**武田　正利**

コロナ禍で集まることが困難な中でも、四月以降、みなさんの奮闘で六七名の方を和教組に迎え入れることができました。仲間が増えると元気がでます。「秋の声かけグッズ」を活用して、「あなたも和教組へ！」と声をかけましょう！

「集まり」「本音で語り」「仲間を増やそう！」

コロナの感染防止対策に加え、「学力向上」「ＩＣＴ教育」などの押し付けで、学校が子どもたち・教職員にとって「窮屈」な場所になってしまっています。

忙しいからと何もしなければ、ますます状況は深刻化します。忙しくても、時間や場所を工夫して、たとえ短時間でも少人数でも集まり、子どものことや願い・悩み・不満などを本音で語り合い、仲間を増やして働きやすい職場をつくりましょう！

気軽に声をかけよう！

組合加入してくれた方の中には「初めて声をかけられた」という方が結構います。「マグネット付き付箋」や「知って得するパンフ」「確定交渉お誘いビラ」などを手渡しながら「組合に入ってよ！」と気軽に声をかけましょう！

▶マグネット付き付箋

▲知って得するパンフ

確定交渉へ誘って！

一〇月後半から、賃金・労働条件改善、多忙解消など私たちの切実な要求実現をめざして、県教委との確定交渉が始まります。組合の姿がもっとも見えるのが確定交渉です。職場で誘い合い、ぜひ、交渉に参加して下さい。

「教育のつどい（県教研）」、今年はオンライン開催！

今年の県教研はオンライン開催で、一一月二七日（土）に分科会、一二月三日（金）に全体会が開催されます。記念講演は鈴木大裕氏（高知県土佐町議・教育研究者）が「市場化する教育のゆくえ」をテーマに語ってくれます。県教研は組合の値打ちを知ってもらえる絶好の機会です。県教研への参加、和教組への加入を呼びかけていきましょう！

輝いてワンショット　**サテライト会場の様子**
（和教組 夏の講座より）

ピンのスポット 395

新型コロナウイルス感染症拡大の勢いが止まりません。ワクチン接種率は増加していますが歯止めがかかっていません。

最近のクラスターの状況を見ていると飲食に関係したところで起こっているようです。特に自宅等での家飲みで感染している例が多いようです。政府関係者は国民に対して繰り返し「自粛」を呼びかけていますが、自分たちは飲食を伴う会合を繰り返しています。先日も「黙食し、そのあと話し合いを持った」と、とってつけたような言い訳を繰り返していました。そのような状況に飽き飽きしている人も多いのではないでしょうか？

菅首相が退陣を表明しました。そしてもうすぐ、総選挙がおこなわれます。政治を変えるチャンスです。みんなで投票に行きましょう。（Ｙ）

ママ・パパのしゃべり場 ボランティアとして に参加して

和教組　女性部　副部長　得津　裕子

この日会場では、他の子育てルームと同じように、「何ヶ月ですか?」などママさんたちの会話があちこちから聞こえてきました。次に出てくるのは、「復帰はいつ?」「コロナ禍の学校ってどんなんやろね?」「わからないことだらけで不安よな」など様々な情報交換、気持ちの揺れを伝え合う声でした。

交流会では先輩ママの経験談を聞く機会があり、参加者からは、「制度を使うには、いつ頃校長先生に伝えたらいいのか」など切実で、とても具体的な質問が出ていました。子育てに関する制度の必要性、関心の高さを肌で感じました。そして今まで知らなかった権利を知ることができるとても有意義な会になっているなと思いました。何より不安な気持ちを共有できる場があることが心強い!

「ママ・パパのしゃべり場」の意義、価値を再認識しました。「社会全体で子育てしていく、みんなが働きやすい制度の下で!」その為にできること。それはやはりみんなの声を拾い、集め、声を挙げていくこと。子育てをしながら仕事をする教職員の思いは同じだと思います。子育て中の皆さんの声を集め、声を挙げていくなかまが増えればと強く思いました。

◀具体的な質問に答えてくれた復帰したばかりの先輩ママ

「未来をひらく教育のつどい」2021（和歌山県教育研究集会）

今年の教育のつどいは全体会に高知県土佐町議会議員の鈴木大裕さんをお迎えしてご講演いただきます。演題は『市場化する教育のゆくえ』です。

一六歳でアメリカに留学し、公教育の崩壊を目の当たりにしてこられ、帰国されてからは中学校で教鞭をとっておられました。それらの経験をいかし、小さな町から日本の学校教育を根本から見直そうと発信を続けています。高知県と和歌山県はかつて勤評・学テ闘争で果敢に闘った歴史があり、ご本人も和歌山県の教育に関心があるとのことで、歴史から学び未来を見据えた話に発展する事が期待されます。

今回はコロナ感染症の影響を考え、オンライン併用とし、事前申し込み制にさせていただきます。

また、分科会はZOOMミーティングで討論を行います。新学習指導要領が実施される中で何を大事に教育実践を行っていくか、集まることはできなくても集団で議論する機会をもちませんか。IDパスコードは和教組ホームページからの申し込み（一一月一日開始）後に送られてきます。お見逃しなく!

分科会　オンライン開催

11月27日(土)　9時半から12時半（一部午後開催分科会もあります）

全体会　オンライン併用開催

12月3日(金)　開会 18時30分　県民文化会館 3F 特設会議室

詳しくは和教組ホームページで10月よりお知らせを開始し、随時更新します！

オンライン開催！！「教育のつどい2021」（全国教研）

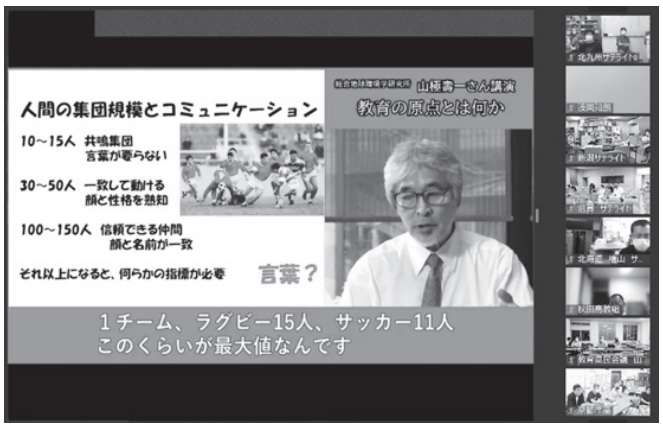
和教組　教文部長　岩田　美和

四日間の日程で開催された「教育のつどい二〇二一」はのべ四〇〇〇人の参加で大きく成功しました。全体会講演は山極壽一氏による「教育の原点とは何か」でした。『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』という執筆本もあるように、ユニークな視点から今直面している人類の課題を鋭く説かれました。

オンライン、YouTubeという手軽さもあり、和歌山県でもサテライト会場や家庭から例年の参加者数以上の三二人が同時に視聴しました。四つのフォーラムや二八分科会ではオンラインとは思えないほど熱心な討論がありました。参加人数が多い分科会でもマスクをしていない表情が画面を通してわかり、意見を挟みにくい時はチャット機能で打ち込んでおくと、司会の方が流れに沿って意見を吸い上げてくれる等、工夫することで集まった時と同じような臨場感を味わうことができました。

和教組では『県教研』を経て推薦された六人の方がレポートし、分科会参加者はのべ二五人でした。

感想などはgoogleフォームを使って送られましたので、全教速報（ゴリラ通信）の感想も紹介させていただきます。



▶「全体会」山極壽一氏「教育の原点とは何か」

▲和教組 海草支部サテライト（全体会）

ゴリラ通信

▼気候変動やコロナ禍で資本主義が破綻していることは明確である。それにも関わらず相変わらず公教育に市場を持ち込もうとしている。（五〇代教員）

▼山極さんの、霊長類研究者としての視点から、教育についてお話いただいたのは興味深かった。（集団「共同体、家族」の違いや、言葉の獲得による他者との関わり、目の違いなど）

教育の奉仕性（見返りを求めない）という点は実感するし、今後ICT化や自己責任論とどう向き合っていくか考えるようにしたい。（三〇代教員）

▶突然振られ、感想を言ってくれた平田先生（和歌山支部）

教育フォーラムA【語ろうコロナ禍の中の子ども達】

医師、教員、親の問題意識の意見交流が良かった。インフルエンザは減ったが他の病気が増え、心身の不調を訴える子どもが増えているのは全国共通だと思った。不安な気持ちを言語化することが難しい子どもは、家にいても情報が過多になり悪循環になるのだと思いました。（五〇代教員）

【食分科会（二本のレポートで和教組栄養職員部がジャック！）】

コロナ禍での休校中の実情や食品ロスなど栄養教諭ならではの視点で、独自の取り組みをされていることを知りました。コロナだからできない、ではなく、今だからこそ何ができるのかを考えていく必要があると改めて感じました。ピンチをチャンスにできるよう、振り返って考えたいと思いました。

［音楽分科会］
（和歌山からはＩＣＴを使った音楽の実践をレポート！）

シリーズ 中教審答申

学校のゆくえ

POINT 3 学校教育の役割を再認識

近年の児童生徒の減少による学校規模の小規模化に踏まえ、全国的にも地域の実情に応じて合理化を図ろうとしています。具体的には義務教育学校化を含む地方公共団体内での統合や分校の活用、近隣の地方公共団体との組合立学校の設置等による学校・学級規模の確保等が挙げられます。

また、義務教育学校制度の活用等による小中一貫教育の推進や、小学校高学年からの教科担任制に向け予算がつけられています。これは教科教育の連続性が明確になる等のメリットはありますが、教師の仕事が授業を教えることだけに切り取られる可能性があり、学校の文化的側面が軽視されることが危惧されます。コロナ禍で学校行事が見直され、触れ合いやつながりの場面が減り、子どもたちが楽しみにしている活動が削られている実態もあります。

答申では「学校は、学習機会と学力を保障するという役割のみならず、全人的な発達・成長を保障する役割や、人と安全・安心してつながることができる居場所・セーフティネットとして、身体的・精神的な健康を保障するという福祉的な役割をも担っていることが再認識された」とし、それらを「日本型学校の強み」とまで述べています。

そうした学校は、教科、教科外の教育活動全体をとおして、子どもたちの「人格の完成」をめざし、営々と積み上げられてきた現場の教育実践、教育活動であることを文科省も認めています。ただ、それらの活動には教師の専門性に基づいた教育の自主性や主体性が伴ってきたことにも留意しなければなりません。

あとがき

コロナ拡大の影響で夏休みが延長され、昨年と同様に子どもの見守りのため、年休をとらざるを得なかった方もおられるのではないでしょうか？今からでもコロナ特休に差し替えられないか相談してはいかがでしょう。

二学期が始まりました。学校では感染対策の強化やオンラインの活用など様々なとりくみがされています。しかしこのことにより、教職員にはより大きな負担となっています。もっと人が必要です。確定交渉で増員を訴えましょう。

秋募集はじまったよ!
全教共済
募集期間
11月30日まで
●火災共済
●生命共済
●医療共済
●新傷害共済
医療共済に新規ご加入で
ハーゲンダッツギフト券プレゼント!
お問い合わせは 和教共済WKK まで!!
Tel073-436-7860　Fax073-436-8688

2021年度
全教自動車保険
教職員専用!!
見積キャンペーン
12月末まで
お見積りするだけでスタバのコーヒープレゼント!
ご成約で話題のエコバッグ Shupatto プレゼント!
お問合せは
和教共済WKK
TEL:073-436-7860
FAX:073-436-8688
MAIL:wkk@wkn.or.jp